

「近づきたいね、暮らしと政治」をスローガンに、1990年に地域の女性たちが中心となり設立した市民の政治団体です。

江戸川生活者ネットワーク

それゆけ!レポート Vol.116 2019.6.25

〒132-0033 江戸川区東小松川3-35-13-205 / 発行人: 藤居 阿紀子 / 連絡先: ☎03-5607-5975

市民参加の政治を拡げよう!

「伊藤ひとみ」と「本西みつえ」は2期目の当選を果たしました

江戸川生活者ネットワークは、「近づきたいね、暮らしと政治」をスローガンに、1991年の統一地方選挙で、初の議席を獲得して以来、30年近く、江戸川区議会に「市民の議席」を守り続けてきました。議員の特権を市民が使いこなす、市民の政治参加の受け皿として、地域の課題を掘り起こし調査を重ね政策をつくり、議会や行政への提案につなげるという活動を繰り返し実践してきました。その延長線上に選挙があり議席を獲得する意味が存在します。

投票率を上げるために

今回の選挙は、現職2人が2期目をめざした選挙でしたが、国民党の強い江戸川区では、厳しい選挙だったと感じます。その中で、東京全体で訴えたスローガンである「ひとりにはない子育て・介護」は、今の課題を明確に表し、支え合いの地域社会をつくることをめざした、私たちの政策をしつかりと伝えることができた実感しています。



最終日、西葛西駅前前で訴える伊藤ひとみ

国政における問題が次々と露呈するなか、市民の政治離れは増す一方です。江戸川区では、区議選と同時に新区長の座を争う選挙だったにもかかわらず、投票率は42.37%と前回の43.12%を下回りました。その中で、今回の統一地方選挙では初めて18歳から投票できましたが、区長選挙における結果報告で、18歳の投票率は40.4%であったものの、19歳で32.0%、20代では平均23.37%という低さだといふことが分かりました。また、高齢になり投票に行くことが困難な人口が増えたとはいえ、70代の平均は61.22%、80代以上でも48.69%だった結果から、やはり若者世代の投票率の低さが大きな問題です。

若い世代が政治を身近に感じ、投票行為につながる「シチズンシップ教育」や選挙の立会人に若者の公募を取り入れることなど、投票率を上げる取り組みが急務だと考えます。

市民の声を反映できる議会へ

選挙の結果は相変わらず自公が強く、自民は1人増え、公明は1人減ですが合わせて27人と相変わらず大半を占めている状況

公園で子育て支援政策を訴える本西みつえ



若い世代が政治を身近に感じ、投票行為につながる「シチズンシップ教育」や選挙の立会人に若者の公募を取り入れることなど、投票率を上げる取り組みが急務だと考えます。選挙の結果は相変わらず自公が強く、自民は1人増え、公明は1人減ですが合わせて27人と相変わらず大半を占めている状況

東なぎさの清掃から見えたもの



伊藤ひとみ 江戸川区議会議員

葛西臨海公園の海側にある葛西海浜公園は、2018年10月18日に「特に水鳥の生息地」として国際的に重要な湿地に関する条約「ラムサール条約」と呼ばれる条約湿地に登録されました。年に2回行われている、船で行けない東なぎさの清掃に参加しました。ここでは、食品トレーや発泡スチロール、固いプラスチックなどの劣化した物が多くありました。拾っても拾っても河口には劣化して小さくなったプラスチック

が流れつことがわかりました。荒川では「荒川クリーンエイド」活動が、毎週のように行われており、江戸川ネットでも、年に1回45ℓのごみ袋50袋以上のごみを拾い組成を調査しています。圧倒的にプラスチックが多いのが現状です。環境省では今年6月3日プラスチック製レジ袋の無償配布を禁止する法令の速やかな制定を発表しました。海外ではストローの規制や発泡スチロールの禁止がすでに行われています。日本の対策は遅れているのです。まず私たちはなるべくプラスチック製品を使わない。プラスチックの代替品を研究するなど、プラスチック製品自体を減らしていくことが重要です。

「いい」についてはダメ?



本西みつえ 江戸川区議会議員

江戸川区から全戸に水害ハザードマップが配られました。表紙の「いい」についてはダメです。をみなさまはどう受け止めたでしょうか。私は2000年に転入してきたため、雨が降るたびに水に浸かった経験がありません。堤防で守られ、下水道が整備されたまちでは、陸地の7割が満潮時の海面より低いゼロメートル地帯ということを実感できなくなっています。

今回のマップは想定し得る最大規模の洪水であり、区のひとつひとつが水没し、2週間は浸水し続けるという、自分たちが暮らすまちの特性を知っておくことは必要です。しかし、一方で、災害に強い安心して暮らせるまちには、壊れない堤防整備が必要だと、スーパー堤防(高規格堤防)整備方針を持ち続ける区の姿勢には合点がいきます。堤防の高さは変わらず、まち側へと浸水の危険は同じなので、優先すべきは内水氾濫対策です。堤防は堤防として強化し、まちづくりと一体のスーパー堤防整備方針は、見直すべきです。



これからの人生のための「エンディングノート」

先日、「特定非営利活動法人エンディングノート普及協会」代表の赤川直美（囲み記事）さんの講座に参加する機会を得ました。「エンディングノートは、これからの人生を自分らしく生きるためのツールです。」

「書くことが目的ではなく、全部書く必要もない、常に書き直して良い、決まった書き方はなくその人に合ったノートを作っていくでしょう。」

という言葉に、書店で見た何ページにも及ぶ既存のノートに手が出なかつた私も、改めて自分なりのノートづくりに取り組む気持ちになりました。

参加者の中には、最近、親や親せきを亡くされた方々もいて、終末医療の在り方や亡くなられた後の葬儀や家のことなど、リアルな体験に基づく話も出されました。私も父親の介護をしており、現実に基づ

いたなどの問題を抱えています。本人の希望も認知症が進んでいると難しくなります。また、医療、葬儀、相続、片付けはどれもお金が絡む事柄であり、遺族がもめる原因にもなります。今どきの問題としてネット関連の事も話題になりました。

SNSやネットバンキング、各種契約などのIDやパスワードも記録に残しておかないと遺族が後始末に困ることになります。エンディングノートは『自分の人生のしまい方の意思を示しておく』ことと『残された人の負担を減らす』ことが大きな役割です。単に書いておくだけではなく家族や親しい人に意思を伝え、話し合っておくことも大切ですね。

自分仕様のエンディングノートづくり、まずは項目の優先順位を決めることから無理なく始めてみませんか？

（奈良 由貴）



太陽光発電により自前で電気を賄っている「松江の家」の学習会で

“自分らしく生きること” のために “自分らしく死ぬこと” と向きあう



エンディングノート普及協会
代表 赤川 直美

「エンディングノート普及協会は「聞いておけばよかった」と後悔しないためにはどうしたら良いだろうか？と考えていた時に出会ったエンディングノートをきっかけに、2013年1月に現代表の赤川と現終活サポート事業部長の江星で立ち上げました（2017年5月NPO法人設立）。

発足当初は書きやすいエンディングノートの作成に力を入れていました。しかし多くの人が悩んでいる「エンディングノートが気になっても書けない」という悩みは、ノートの問題ではなく「なぜ書くのか？本当に必要なのか？」という気持ちの問題が大きいと気づきました。どんな

に優れたノートであっても、自分に必要だと感じることができなければ書くことはできないとわかり、現在は自分に必要なエンディングノートを見つけることができる内容の講演活動に力を入れています。

“自分らしく生きること”が注目される現代において、なぜ人は“自分らしく死ぬこと”に向き合わないのでしょうか？自分はどういうように天命を全うしたいのか？死を考えることで必然的に「今を生きること」に向き合うことができます。エンディングノートは「人生の終わりに書くもの」ではなく「自分らしく生きるためのノート」として、お勧めしています。

「江戸川区スーパー堤防差止等訴訟控訴審」判決の傍聴を！

日時：7月16日(火)午後4時 場所：東京高等裁判所101大法廷

本訴訟は2014年、北小岩1丁目東部地区の地権者等4名が、国及び江戸川区に対して提起。国には盛り土工事する権原はない、居住の自由及び人格権侵害、必要性・公共性を著しく欠く事業であると主張、盛り土工事の差止め及び慰謝料請求を求めています。しかし17年1月、これら主張は退けられ、同年5月控訴されました。原判決が「盛り土は安全」とした直後、地盤

強度不足が発覚。事業の根幹を揺るがす新たな重大課題が明らかになったことで弁論期日は実に7回を数えました。この間、控訴人の主張が認められ、国が公開を拒んでいた地盤データについて「文書提出命令」が下され、証人尋問もなされました。公平公正な判決を大勢で見届けましょう。判決後、衆議院第二議員会館地下1階第一会議室にて報告集会も行われます。

●インフォメーション●

<p>第39回 江戸川区原爆犠牲者追悼式</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日時：2019年7月21日(日) 14:00開式 ●場所：葛西区民館ホールにて ●主催：江戸川原爆犠牲者追悼碑の会 <p>追悼式終了後、滝野公園で原爆犠牲者追悼の碑に献花します。</p>	<p>反核キャンドルデモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日時：2019年8月9日(金) 18:00集合 ●場所：滝野公園集合 <p>原爆犠牲者追悼碑のある葛西区民館隣の滝野公園から、西葛西駅前の公園まで平和を訴えながら、デモ行進します。</p>	<p>水辺の生きもの環境調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日時：2019年9月8日(日) 10:00から ●場所：平井大橋下流荒川河川敷にて <p>自然に詳しいリーダーと一緒に魚やカニ、植物や鳥などの調査をします。</p>
--	--	--

お問合せ：江戸川・生活者ネットワークまで TEL:03-5607-5975 FAX:03-5607-6158 メール:soreyuke@net.email.ne.jp

生活者ネットワークは
東京の 40年の実績
地域政党です

市民が選べる 東京・未来

最も身近な自治体議会に議員を送り、地域から生活の課題を解決していきます。現在34の自治体にそれぞれ生活者ネットワークがあり、区・市議会議員42人、都議会議員1人を擁しています。食品安全、医療、水問題など、東京全体の課題には「東京・生活者ネットワーク」として取り組んでいます。

江戸川・生活者ネットワークのルール

- ◆議員は交代制
議員を職業とせず、参加の層を広げるため、2期8年で交代します。議員経験者はそのキャリアを地域の市民活動に活かします。東京全体で交代した議員が206人、江戸川では5人。現職を合わせると254人の女性議員を誕生させています。
- ◆議員報酬は市民の活動資金に
生活者ネットワークの議席は市民のためのもの。議員は、報酬から経費を引いた額を生活者ネットに寄付し、市民の活動資金にしています。お金の流れはすべて公開しています。
- ◆選挙はカンパとボランティアで
選挙では、候補者が費用負担することはなく、カンパとボランティアで行なっています。

●活動にご賛同いただける方はカンパをお願いします。 ゆうちょ銀行 口座記号 00170-6 番号 763600 口座名 江戸川・生活者ネットワーク ●